

越谷市には、たくさんのすてきがあります。では、すてきとは何でしょう。たとえば、越谷市がじまんでくれるもの、越谷市の歴史などが考えられますね。越谷市のすてきは、どうしたら、調べることができるでしょうか。みんなで考えてみましょう。

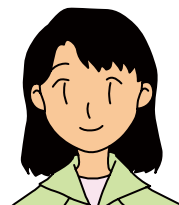
だれに聞いたら
わかるかな。

どこにいったら
みることができるかな。

どんなことを
調べたらよいか。

調べる方法は
ほかにないかな。

市役所には越谷市のことをもっと知ってもらい、好きになってもらうためや越谷市の文化いさんを残すために仕事をしている人たちがいます。広報シティプロモーション課や経済振興課、生涯学習課などです。また、越谷市のHPにもものっています。地域にはこのようなことにくわしい人もいます。いろいろな人から学べるといいですね。



越谷隕石

1902年（明治35）3月8日の明け方に埼玉県南埼玉郡桜井村大字大里（現在の越谷市）に落下しました。回収された隕石は1個で重量は4.05kgです。2023年2月、国際隕石学会に「越谷隕石(Koshigaya)」として正式に登録されました。



越谷市には、越谷市出身の有名人がたくさんいます。越谷市のテレビ広報番組「Koshigaya Collection」に出演したり、越谷市の広報紙「広報こしがや」で紹介したりしています。

しゅっしん ゆうめいじん
出身の有名人

益若 つばさ

モデル・商品プロデューサー

高校生のころから、ざっしのモデルとして活やく。今は洋服やけしょうひんのプロデューサーとして人気商品をたくさん生み出しています。2023年には映画「翔んで埼玉〜琵琶湖より愛をこめて〜」に出演しました。



星 奈津美

元競泳日本代表

鷺後小学校、栄進中学校出身。2012（平成24）年・2016（平成28）年のオリンピックで2大会連続銅メダルを獲得。今は、水泳教室の先生やテレビに出るなど幅広く活動しています。



阿炎 政虎

大相撲力士

西方小学校、大相模中学校出身。高校卒業後、鍛山部屋に入門。得意技は突き・押しです。2022（令和4）年11月場所において、12勝3敗の好成績で見事幕内初優勝を果たしました。



最近の取り組み

男子バスケットボールクラブ「越谷アルファーズ」

越谷総合公園の中にある総合体育館をホームとして活動しています。越谷駅東口にもチームの選手の皆さんの写真がはってありますね。開催している試合を見に行ってみましょう。





ほかにも越谷市出身の有名人がいます。調べてみましょう。
 今も昔も越谷市には歴史的に有名な人がいます。

越谷 吾山（1717年－1787年）

江戸時代の8代将軍、徳川吉宗が活躍した享保2年に新町（現在の越ヶ谷1～3丁目付近）で生まれた。

本名は会田秀真。俳人（俳句を作る作者）であり、方言研究家として知られている。日本で初めて全国の方言の研究書である「物類称呼」を書いた。



天獄寺に残る
おはか

三ノ宮 卯之助（1807年？－1854年）

越谷市の三野宮（さんのみや）で生まれた、日本一の力持ち。

22歳の時、瓦曽根村最勝院で70貫（約263kg）の力石を持ち上げた。得意な芸は、馬に騎乗した人を乗せた舟を足で持ち上げる「足指し」だった。日本中を周り、見せて歩いていた。1833年には、将軍徳川家斉の前で力持ち芸を見せ、この時、力持ち番付表によれば大関となったと言われている。卯之助が持ち上げたといわれる力石は、ふるさとの三野宮香取神社、越ヶ谷久伊豆神社をはじめ、諏訪大社（長野県）、桶川宿・稲荷神社（埼玉県）、川崎大師・江島神社（神奈川県）、大阪天満宮（大阪）など全国に残されている。特に、桶川市の大盤石は、大きな力石で610kg、卯之助の名前のある力石としては日本一の重さである。



中央市民会館前の記念ひ



大袋三野宮香取神社の力石

呑龍 上人

一ノ割村（春日部市）に生まれ、平方村（越谷市）の林西寺（現在も越谷市平方にあり、呑龍上人の寺として知られている）で勉強して出家し、その後江戸芝増上寺（東京の増上寺）で学んだ。やがて、現在の東京の八王子にある大善寺の住職となり浄土宗檀林（僧侶の学校）の基礎をつくった。その後、徳川家康の命により呑龍が開山した上野国太田（群馬県太田市）の大光院で、子どもを捨てる悪習をなくしてお米を与え、生活に困った人の子供を弟子として寺に招き、たくさんの命をすくったことから、「子育て呑龍」として、みんなからあがめられる人となった。



林西寺に残る
おはか

千疋屋 弁蔵

東京日本橋にある千疋屋といえば、総合果物店として日本一になった高級フルーツ店の代名詞だが、その初代が、千疋屋弁蔵、本名、大島弁蔵。現在も越谷市には千疋の地名が残っている。彼は、江戸時代に越谷市で大島流槍術を教えていたが、その後、当時の越谷市の特産品であった桃を中心に、柿やすいか、ぶどう、まくわうりなどを、船に積み、今でいう産地直売で江戸三座と呼ばれた歌舞伎小屋のあった日本橋で販売したのが始まり。

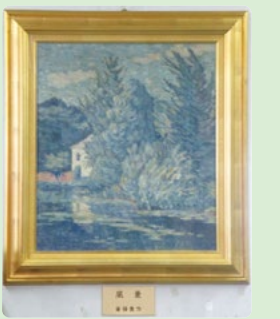
会田 七左衛門政重（1580年？－1642年）

江戸時代の関東代官頭であった伊奈半十郎忠治の重臣の一人で、出羽地区の新田開発に力をつくした。多くの村々にお寺をつくり、村づくりに大きな功績を残した。七左衛門村（現在の七左町）の村名は、昔は沼地であった土地を開発した会田七左衛門政重の名をとってつけられた。

斎藤 豊作

大相模村で生まれた。大相模尋常小学校（現在の大相模小学校）、越ヶ谷高等小学校を卒業し、19歳で東京美術学校（現在の東京藝術大学）に入学すると、黒田清輝らに西洋画を学んだ。卒業後の1906年に、26歳でフランスのパリを訪れ、画家のアンリ・マルタンの点描表現に大きな影響を受け、点描による絵画を描いた。強い色彩と華麗な点描表現は、帰国後に出品した文部省美術展覧会（文展）などで注目を集めた。その後、日本で点描を解説し紹介した。1914年に画家仲間と二科会（現在も二科展などで知られる美術団体）をつくり、そのはなやかな色彩の点描画法で「二科会の花」と賞賛されていた。その後フランスにわたり、「風景」の絵画はコピーで、フランスでなくなった。

※豊作がフランスの風景を描いた絵画「風景」は、大正4年に大相模小学校に寄贈され、現在は越谷市立図書館に展示されています。



市立図書館所蔵「風景」
（大相模小学校にある
「風景」の絵画はコピーで、
本物は市立図書館に展示
されています。）

会田 太郎兵衛

慶長年間（1596～1615）に、現在の宮本町 四丁野村の名主だった会田太郎兵衛がもち米の改良に取り組み、作り出したのが「太郎兵衛もち」と呼ばれるもち米。「コシが強く、ねばりがあり、独特の風味がある」このもち米は、明治から昭和初期にかけて大人気となり、天皇家献上品となった。日本一のもち米として、昭和初期には東京の和菓子屋があらそって、太郎兵衛もちを買い求めたと言われる。現在は「こしがや愛されグルメ」に認証されている。